

## 近代の国づくり（1867～1900） その6

### 《明治天皇、多摩へ御幸》

明治天皇は、多摩川流域へ頻繁に御幸されます。（注1）目的は、兎狩、鮎漁、花見です。当時、国会開設、憲法制定を求める自由民権運動が燃え上がっていました。その運動が熱狂的な多摩川流域に物見遊山に出かけられた背景を探ります。

明治天皇（生没年：1852－1912年）にとって、憲法を制定して国会を開設するという新しい国体（立憲君主制）へ移行させるかどうか、27歳にして決断を迫られていました。明治維新を共に戦った西郷隆盛（生没年：1826－1877年）、大久保利通（生没年：1830－1878年）はすでに亡くなっています。

そこで天皇が自ら決断するため、まず武蔵国一之宮だった大国魂神社に奉納した後、あえて物見遊山を名目にして、多摩川流域への御幸を決行されたのではないか。事前に宮内省から地元情勢の分析・報告を受けることができ、御幸で現地のモニタリングができるからです。もちろん、重圧からのストレス発散に繋がったことは言うまでもありませんが、・・・。

でも、なぜ兎狩なのでしょう。それは、兎狩が大好きだった西郷隆盛に影響を受けたからだと推察します。上野の西郷隆盛像は、犬を連れて兎狩に出かけたときを銅像にしたものです。

そして31歳のとき、川崎と多摩と、立て続けに御幸されます。川崎は、観梅が目的でした。これにも、隆盛の影響を感じます。隆盛は、「雪に耐えて梅花麗しく」を1節とする「一貫唯唯諾」という五言律詩を詠んでいるからです。

実は、前年、岩倉具視（生没年：1825－1883年）が亡くなっています。天皇は、西郷の言葉を噛み締めるべく、梅花を見たあと、苦しい決断の時期に訪れた多摩に行き、そこで「春深き 山の林に きこゆなり 今日を待ちけむ 鶯の声」と詠まれます。明治維新の偉勲亡き後の、自立した天皇の姿が読み取れると考えますが、いかがでしょうか？

逆賊とされた西郷隆盛は、大日本帝国憲法発布に伴う大赦で、名誉が回復され、

上野に隆盛の銅像が建立されました。

参考：西郷隆盛の五言律詩「一貫唯唯諾」

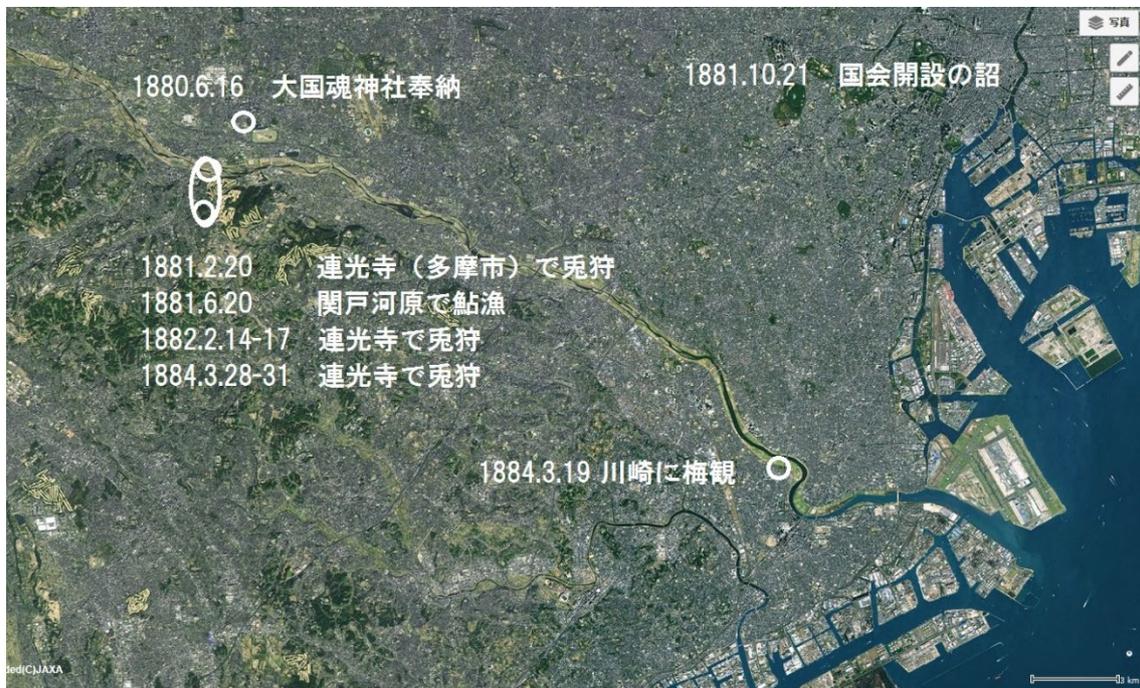
従来鉄石肝 従来、鉄石（てっせき）の肝  
貧居生傑士 貧居（ひんきょ）、傑士（けっし）を生み  
勲業頭多難 勲業（くんぎょう）多難に頭（あら）わる  
耐雪梅花麗 雪に耐えて梅花麗（うるわ）しく  
経霜紅葉丹 霜を経て楓葉（ふうよう）丹（あか）し  
如能識天意 如（も）し、能（よ）く、天意を識（し）らば、  
豈敢自謀安 豈（あに）敢（あえ）て、自から安きを謀（はか）らむや

注1：天皇が、1890年（明治23）を期して、議員を召して国会（議会）を開設すること、欽定憲法を定めることなどを勅諭。その前後に多摩川流域へ御幸されます。その経緯は以下の通りです。

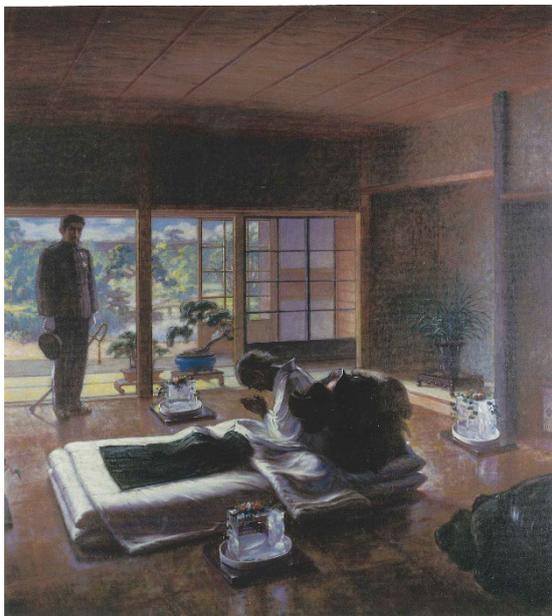
- 1880年(M13) 6月16日、大国魂神社（府中市）奉納
- 1881年(M14) 2月20日、連光寺（多摩市）で兎狩  
6月20日、多摩川の関戸河原で鮎漁  
10月21日、「国会開設の詔」
- 1882年(M15) 2月14～17日、連光寺（多摩市）に兎狩
- 1883年(M16) 4月23日、多摩の小金井に観桜
- 1884年(M17) 3月19日、川崎に観梅  
3月28～31日、連光寺に兎狩

写真は、①多摩川流域の御幸場所（細見作成）、②聖徳記念絵画館壁画「岩倉邸行幸」（北蓮蔵画、明治神宮崇敬会HPより）、③上野の西郷隆盛像（細見撮影）

①



②



③

